

チェックリストによる河川事業の再評価項目（その１）

河川名	がくしまがわ 学島川	事業名	総合流域防災事業	事業区間	吉野川市山川町岩戸他
再評価の実施理由		再評価実施後５年が経過しており、事業の必要性・効率性を再度評価する。			
未着工或いは事業が長期間要している理由			用地取得が難航したため工事実施までに期間を要した。		
事業内容	事業目的	河積の拡大により洪水被害の解消を図る。			
	事業実施内容	全体計画延長L=1,615m 築堤800m ³ 、掘削 1,600m ³ 、護岸 440m、道路橋10橋			
	目標流量(将来)	20 m ³ /s	計画流量(本事業)		7 m ³ /s
事業の進捗状況	事業採択年	H5	工事着手年	H5	完成目標年 H30
	全体事業費 (内用地費)	13.0 億円 3.5 億円	投資事業費 (内用地費)	9.6 億円 (進捗率 74 %) 2.7 億円 (進捗率 77 %)	
	事業進捗状況	JR交差部から上流へ約1.2km付近までが概成している。			
	一連の整備効果の発現状況	改修済区間では、河道断面が拡大され浸水被害が軽減されている。			
事業を巡る社会情勢等の変化	事業目的に関する諸状況	現状での課題	河道断面が狭小であるため(河床幅約1.0m程度)流下能力が不足し、度々浸水被害が発生している。		
		災害発生時の影響(想定氾濫区域内)			
		①浸水戸数：45 戸 ②浸水面積：25 ha ③重要な公共施設等：山崎南污水处理場，川島公民館学西分館(避難所)			
		過去の災害実績			
		①被災頻度：S50(豪雨)，S62(台風19号)，H16(台風23号)，H21(台風9号)，H23(台風15号) 浸水戸数：373戸 不明 40戸 32戸 11戸 ②最大浸水戸数：373戸(3戸半壊含む)[S50(豪雨)] ③最大農地浸水面積：244.3ha[H21(台風9号)] ④重要な公共施設等：山崎南污水处理場，川島公民館学西分館(避難所)			
		災害発生の危険度			
		①改修目標流量に対する現況流下能力の割合：35 % ②現況の治水安全度：田畑がほぼ毎年浸水被害を受ける			

チェックリストによる河川事業の再評価項目（その2）

河 川 名		がくしまかわ 学島川	事 業 名	総合流域防災事業	事業区間	吉野川市山川町岩戸他
続 き	地 域 の 状 況	・ 事業促進要望が強く、地域の協力体制は良好である。 ・ 流域内に、汚水処理場、避難地である公民館などがあり、これらの施設が被災すると波及被害が大きい。				
費 用 対 効 果 分 析		費用： 総費用の算定は、以下に示すとおりである。 ・ 総事業費 全体事業費のうち執行済事業費は治水デフレーター及び割引率(4%)を考慮し、残事業は将来の割引率(4%)を考慮して現在価値化しうえ積算した。 総事業費 = 1,721 百万円 ・ 維持管理費 1年間当たりの維持管理費について、施設完成後（50年間）を対象に将来の割引率(4%)を考慮して現在価値化しうえ積算した。 維持管理費 = 110 百万円 ・ 総費用 総事業費＋維持管理費で算出した。 総費用 = 1,721 + 110 = 1,831 百万円				
		効果： 総便益の算定は、以下に示すとおりである。 ・ 純便益 事業中の便益として、年平均被害軽減期待額（60百万円）を、事業完成までの7年間（平成24年～平成30年）にわたり現在価値化して積算した。さらに事業後の便益として、年平均被害軽減期待額（137百万円）を、事業完成後50年間（平成31年～平成80年）にわたり現在価値化して積算した。 純便益 = 2,697 百万円 ・ 残存価値 評価対象期間終了時点における構造物と用地の残存価値を現在価値化して積算した。 残存価値 = 44 百万円 ・ 総便益 純便益＋残存価値で算出した。 総便益 = 2,697 + 44 = 2,741 百万円				
		費用対効果分析の結果 費用便益比 $B/C = 1.50$（残事業 $B/C = 4.1$） <感度分析結果> 残事業費：$B/C = 1.47$（+10%の場合）、$B/C = 1.52$（-10%の場合） 残 工 期：$B/C = 1.48$（+10%の場合）、$B/C = 1.51$（-10%の場合） 資 産：$B/C = 1.62$（+10%の場合）、$B/C = 1.37$（-10%の場合）				